



# 全国大会 参加報告

---

U-20審判員春季研修会

---

# U-20 審判員春季研修会 参加報告

兵庫県サッカー協会

北條 結羽

## 1.はじめに

この度、3月3日から3月7日に茨城県鹿嶋市で開催されました「U-20 審判員春季研修会」に参加させていただきました。

このような研修会に推薦して下さった関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会、姫路サッカー協会の皆様、研修会に携わっていただいた皆様、運営のサポートをして下さったスポーツマネジメントの皆様に感謝申し上げます。

以下、参加報告になります。

## 2.大会概要

大会名 : TRAUM CHALLENGE FESTA 2024 in SPRING

大会期間 : 2024年3月4日(月)～3月7日(木)

場 所 : 鹿島ハイツスポーツプラザ

## 3.事前研修会

- ・2月15日(木) 20:00～21:30 ZOOM
- ・大会概要や研修目的を確認

## 4.研修期間中について

- 【集合日】 3月3日(日)
- ・自己紹介



- ・各個人や各グループでの課題、目標設定

4つのグループに分かれ、それぞれで課題や目標の設定を行いました。私自身の課題は「判定の見極め」と「幅のある動き」で、グループでは「コミュニケーション、走力、マネジメント」でした。

### 【大会1日目】 3月4日(月)

- ・午前はグループディスカッションとプラクティカルトレーニング

まずは座学で、さまざまな場合のマネジメントについてディスカッションをしました。中でも私たちのグループではフリーキックマネジメントについて話しました。何を意識しているのか、笛の強弱などについて話し合いました。その際に、インストラクターの柳元氏から「First Judge, First Signal」と言われ、試合の一番初めの判定とシグナルをどの位置で、どのように表現するのが大切だと学びました。

プラクティカルトレーニングでは、ステップワークやシグナルの表現を行いました。大きなスタジアムでそのシグナルでみえるのか、説得力があるのかなど普段何気なく行っていることでもこだわる必要性を感じました。また、座学でのフリーキックマネジメントをピッチ上で行い、頭で整理したことを実践に移しました。



- ・試合について

《東京経済大学 — 東京国際大学》

主審 北條 結羽 (兵庫)、土屋 花氏 (北海道)

副審1 菊池 葉一朗氏 (岩手) 副審2 チーム帯同

INS. 羽矢 吉克氏 (愛知)

大会初日は、前半45分の主審でした。振り返りからマネジメントの対応で声掛けの仕方や強さを変えることの引き出しを増やすことができました。例えば、選手と同じ目線、立場に立って声を掛けたりあえて弱く出たりすることです。動きでは幅の動きを意識し、争点より外に出ることができましたが、一定のスピードではなく、緩急をつけるにより良くみえるとアドバイスをいただきました。

- ・ミーティング

名木氏からプレスとカウンターの動きについての分析がありました。また、グループで今日の反省点と明日のための改善点を整理し、予測と動き出しや走り方、姿勢など見

せ方についても話し合いました。

## 【大会2日目】 3月5日(火)

### ・試合について

《東京国際大学 — 拓殖大学ユニコーン》

主審 原田 萌弘氏 (広島)

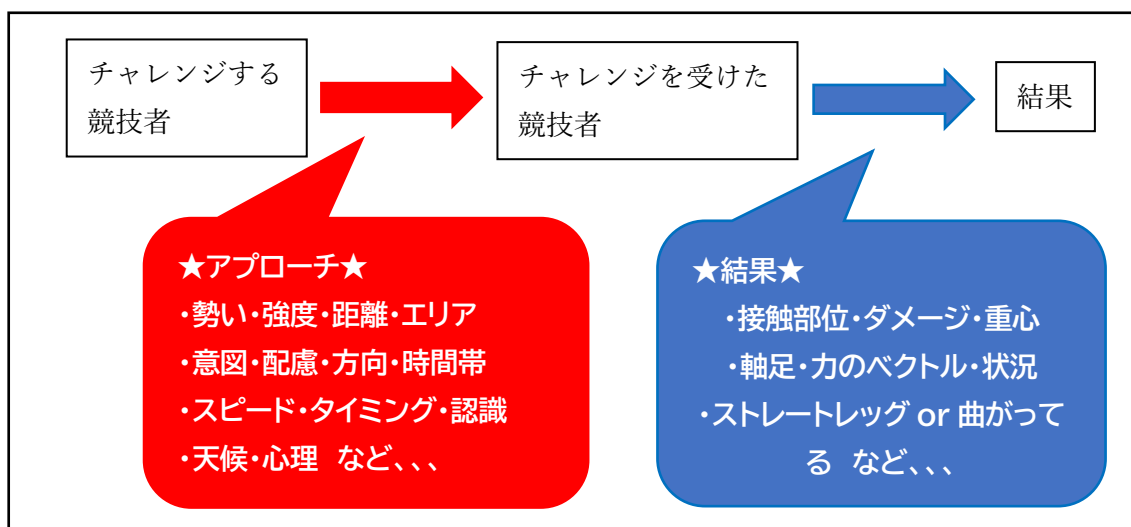
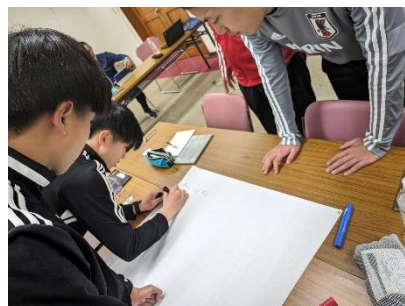
副審1 北條 結羽 (兵庫) 副審2 チーム帯同

INS. 渡辺 典子氏 (埼玉)

大会2日目は、90分の副審でした。前半、私はファウルサポートを行い、主審の笛とフラッグアップが同時で説得力があったと言われました。また、タイトなオフサイドの判定も自信をもって行うことができ、シグナルについてもスタジアムでの見栄えを意識しました。雨の中の試合で、ステップワークの重要性を感じました。

### ・ミーティング

審判報告書の書き方を確認した後、「決定的な得点の機会の阻止」についての整理と「著しく不正なプレー」についてのグループディスカッション、発表を行いました。グループディスカッションではアプローチと結果のピースを出し合いました。



多くの情報と決断力が求められる事象ですが、競技者の安全を守るためにも今回のデ

イスカッションを通して整理できたのでイメージをし、実際の試合で対応できるようにしていきたいと思いました。

## 【大会3日目】 3月6日(水)

### ・試合について

《拓殖大学麒麟 — 順天堂大学》

主審 北條 結羽 (兵庫)

副審1 原田 萌弘氏 (広島) 副審2 チーム帯同

INS. 柳元 良文氏 (北海道)

大会3日目は、90分の主審でした。今回の目標は、争点に近づけた後のポジション修正を行うことでした。朝から強風で、私の試合直前から雨が降り出すというコンディションとしては良くなかったですが、これも一つの経験だと捉え、天候のことも考えながら試合に臨みました。

試合中、フラストレーションが溜まっていた選手への対応やレイトタックルをした選手へのマネジメントで、外からみると主審がしつこく見えてしまっていると言われ、1日目のマネジメントの仕方とタイミングも必要であると感じました。ピッチコンディションの影響からロングボールが増え、何度か争点から離されてしまいました。このことから、予測が大事であり、その予測から動き出しの早さに繋がるのではないかと考えました。後半に、「予測→動き出し→状況からスプリントが必要」と判断し、争点から約5mの位置でファウルの判定ができたのでこれを1試合通してできる力が必要だと感じました。

また、視察に来られたJFAの宮島一代氏から私の試合のアドバイスをしていただき「今はきれいにするより一生懸命にがむしゃらにすることや若いのでとにかく走ることが大切だ」とアドバイスをいただきました。その中でも私が印象に残ったのは自分の特徴を表現することです。私は身長が高くないので、他のところで自分を表現する必要があり、それは自分のストロングポイントになると言われました。また、上級を目指すのに必要な英語力の向上も挙げられました。私は外国語大学に在学しているので、その面では私の武器の一つになると感じました。

### ・ミーティング

この日は、日常のトレーニングとフィールドインスペクションについて考えました。普段のトレーニングにサッカーのフィールドを使ってできる方法や普段9.15m(10ヤード)を測るときにどの方法で計測しているかによって前、後ろ、横、混合とそれぞれを試合前に計測する必要があり、フィールドインスペクションの際に何度計測ができ



るのかを考えました。

【大会最終日】 3月7日(木)

・試合について

《拓殖大学ユニコーン — 関西学院大学》

主審 岩佐 丈氏 (宮城)、穴水 隼磨氏 (山梨)

副審1 北條 結羽 (兵庫) 副審2 郷田 陸氏 (山口)

INS. 蒲澤 淳一氏 (東京)

大会最終日は、90分の副審でした。この試合では、気を付けの姿勢についてご指摘をいただきました。頭、肩、腰、くるぶしまでが一直線になるように、本部やベンチの前である副審1はそういったところもこだわるとより良くなるのではないかと感じました。

また、主審が前後半で変わったので打ち合わせの内容や判定基準などに違いがあり、副審として柔軟にサポートできるように心がけました。



#### 4.大会を振り返って

今大会では、審判員という立場だけでなく、運営としても大会に携わらせていただきました。普段の審判活動では運営用の試合結果の報告書を書いたり、無線機を使ってトレーナーの方を呼んだりしたことはなく、今回の経験が初めてでした。しかし、私たち審判員も「Match Official」としてサッカー、そして試合を進めていかなければならないと感じました。また、今後の試合に関わってくださる運営の方にも感謝しなければならぬと改めて感じました。

#### 5.研修会を振り返って

私は、今回、始めてJFAが主催する研修会に参加させていただきました。当初は、緊

張と不安でいっぱいでしたが、各地域から集まった同年代の審判員とともに生活をし、活動することにとっても刺激を受け、あっという間の5日間になりました。

参加するにあたり、全国の審判員の中で自分の実力を知ることが一つの目標でした。私は、自身の持つ力をオンザピッチ、オフザピッチで発揮することができたと感じます。集合日に名木氏から「自分を低くみたり、自分で限界を決めたりしては絶対にいけない」と言われました。自信過剰になるのではなく、自己肯定感やメンタルを強く持つことが私の課題の一つであると感じました。

この研修会で、一番感じたことは「細部にこだわること」です。審判員としての技術、パフォーマンスだけでなく、シグナルや姿勢、印象にも気を付けることでより見栄えが良く、説得力ある審判員になれると学びました。

今回の研修会のような貴重な経験をさせていただき、今後の関西や兵庫県での活動で少しでも貢献できるように精進して参ります。

最後になりましたが、今回の研修会に推薦していただいた関西・兵庫県・姫路サッカー協会の皆様、JFAの名木氏、村山氏をはじめ支えてくださった皆様、スポーツマネジメントの皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

